



JAが作製した農畜産物盗難防止用と販売促進を支援するマグネットシート

## 農畜産物の盗難防止と消費拡大を 2種類のマグネットシート作製

**JA**は、農畜産物盗難防止パトロールと農畜産物消費拡大応援の車用マグネットシート2種類を作製し、公用車に設置しました。

農畜産物の盗難が相次いでいる中で、生産者に注意喚起を図る目的で盗難防止マグネットシートを公用車の巡回車両に設置しパトロールを強化しています。また新型コロナウィルスの感染拡大により、農畜産物の消費低迷が長期化しているため、当JA管内産の販売促進を支援する目的で消費拡大用のマグネットシートも作製しました。盗難防止シートは縦10cm、横50cmで50枚、消費拡大応援シートは縦20cm、横5cmで60枚をそれぞれ作製しました。

J A の担当者は、「農畜産物の盗難防止と販売促進を支援するために両方のシートを有効活用したい」と話しています。

J A は、「最近は県内でも、大型トラクターなどの農機具の盗難が相次いでいるので、管理には十分に気を付けてほしい」と呼び掛けています。

# スタート!!



5/16  
日

## 田植え体験

宇都宮市上欠町

5家族20人が参加。親子で田んぼに入り、泥に足をとられながらも楽しく田植えを行いました。7月下旬には「田んぼの生き物調査」、9月下旬には「稻刈り体験」を予定しています。



5/29  
土

## 梨の摘果体験

宇都宮市上籠谷町

5家族20人が参加。ナシの実をはさみで切り落とす作業を体験しました。摘果はナシを大きくするために行います。10月下旬にはにっこりの収穫を体験する予定です。

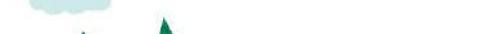


6/5  
土

## りんごの摘果作業体験

宇都宮市上小池町

5家族20人が参加。一番大きいリンゴの実を残して後ははさみで切る作業をしました。農園主の阿部律也さんは「宇都宮にもリンゴがあることを知つてほしい」と話しました。11月下旬には収穫体験をする予定です。



## 特集

# 2021年度 くらしの活動 『アグリスクール』

6/5  
土

いちご収穫・デザートづくり&  
JAグリーンインターパーク買い物ツアー



宇都宮市下桑島町

3家族11人が参加。箱いっぱいにイチゴを収穫する体験を楽しみました。デザートづくりは中止のため材料のみ配布。JAグリーンインターパークでは旬の野菜を買い求めていました。



6/5  
土

たまねぎ・  
じゃがいも収穫体験

下野市別処山公園



4家族15人が参加。タマネギとジャガイモの収穫体験を楽しみました。収穫したタマネギはネットに入れて持ち帰りました。園場を提供した宇賀持昇さんは「みんな元気いっぱいだった」と満足していました。

## 『女性大学』

### 第8期 女性大学が開校

5月12日、第8期女性大学入学式とオリエンテーションを開催しました。今期入学した受講生28人とJA役職員が参加し、来賓としてみどり会の所洋子会長が出席しました。第1回講座は7月15日、16日に班を分けて開催する予定です。



## 実践的な営農指導について学ぶ

営農指導員研修会



営農指導員の質問に答える斎藤さん(左)

**J**Aは4月8日、宇都宮市砂田町の南部営農経済センターで園芸担当者向け研修会を開催しました。当JA営農指導員や関係者など25人が参加しました。講師にはデルフィージャパンの斎藤章さんを招き、営農指導と植物生理の基礎、生育調査とその活用など、これまでの経験を踏まえた講習を受けました。

園芸課の駒場哲也課長は「今回の研修会で、実践的な営農指導についてしっかり学び、産地の問題解決と生産者所得の増大に向けて取り組んでほしい」とあいさつしました。

研修会では①今までの体験をノウハウに変えての話②学問ではなく実践のための技術について③理論に則った再現性の高い技術指導④わかるではなく、できるを伝える⑤目的実現の手伝いの5つのポイントについて講習を受けました。

J A職員からは「実践的な指導方法を学ぶことができた。今後は現場で実践し、復習し、組合員の期待に応えられるよう努めたい」との声がありました。

## ナシの省力技術学ぶ

梨専門部研究部清原支部



**梨** 専門部研究部清原支部はジョイント栽培接木講習会を宇都宮市刈沼町、岩本純一さんのは場で開催しました。同支部員、県・市・JAの担当者12人が参加しました。ジョイント栽培は、全国的に普及が進む「早期成園化」「省力技術」を目的とした栽培方法です。

清原地区では岩本さんが初めての本格的な導入となり、今後、地域内の普及が進むかを占うほ場でもあります。昨年の栽培期間中に約4年に伸長した苗木を同一方向の隣り合う苗木の基に接木していく作業を行いました。ジョイントさせることで隣の樹と養水分が共有され、樹全体の樹勢が一定となり、果実品質の均一化と肥培管理の単純化を図ることができます。今年、果実を付ける枝が出て、初収穫は来年からとなります。



岩本純一さんのは場で行われたジョイント栽培接木講習会

## 母の日に向けユリの現地検討会

球根切花専門部



母の日に向けた球根切花専門部の現地検討会

## 球

球根切花専門部は4月16日、ユリの現地検討会を宇都宮市内の5カ所のは場で実施しました。部員や県・市・JAの担当者ら14人が参加し、母の日に向けて出荷を予定しているユリの生育状況などを確認しました。

須藤智司専門部長は「母の日に合わせた出荷予定のユリの状態を確認する。新型コロナウイルスの再びの感染拡大が懸念され、先行きに不安があるが、母の日に向けてしっかり検討してほしい」とあいさつしました。

現地検討会では、5月9日の母の日用をはじめ、ニュージーランドやチリなどの南半球産のユリの成長過程を視察しました。また、今後気温が上がり、病害虫対策が大切な季節になるため、適正な栽培管理を行うよう指摘しました。この後、参加者は4カ所のは場で生育状況などを確認しました。

## 高タンパク質小麦の栽培に向けて

ドローンでリモートセンシング



小麦の圃場を撮影するドローン

**JA**は4月22日、管内のパン用小麦「ゆめかおり」の圃場13ヵ所を、特殊カメラを搭載したドローンで空撮しました。このリモートセンシングで解析結果をマップ化することで色と数値で圃場内の状況を「見える化」します。それによって追肥の計画や収穫時期の確認に利用することができます。

今回の撮影では、小麦の出穂期前の葉色、圃場内の生育状況のばらつきを確認することを目的としました。今後、解析結果と収穫時のタンパク値との関係性を確かめます。

JA米麦課の担当者は「パン職人が求める高タンパク質小麦の栽培にリモートセンシング技術を利用することができないかと考えている。今後センシング技術の向上に大きな期待を寄せている」と話しました。

## トマト専門部 出荷最盛期に向け形状などを確認

トマト専門部



**ト**マト専門部は4月26日、目ぞろえ会を宇都宮市上籠谷町の東部選果場で開催しました。トマト専門部品質向上委員や選果員、JAの担当者ら約50人が参加しました。

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中で、連日の箱詰め作業を丁寧に行っている選果員に対し、感謝の言葉を述べた岡本直樹専門部長は「厳しい販売状況が続いているが、JAうつのみやトマト専門部は、消費者や市場から信頼される産地として、高品質なトマトを出荷するため、選果は非常に重要。これから最盛期に入るため、本日の目ぞろえ会で規格を確認し、選果をしてほしい」とあいさつしました。目ぞろえ会は密を避けるために3班に分けて行われ、JAの担当者が着色・形状などをチェックし、A品からD品と規格外について説明しました。



東部選果場で行われたトマト専門部の目ぞろえ会

## 職員がネギ栽培方法学ぶ

JAの職員向け



河内営農経済センターで行われたネギ栽培講習会

**JA**の営農担当職員向けに2021年度ネギ栽培講習会が5月25日、河内営農経済センターで行われました。同JAの渡邊菊男技術顧問が講師を務め、職員15人が参加しました。

渡邊技術顧問は、発芽適温や最高温度、最低温度を示し、「温度が一定の場合は、明所の方が暗所より発芽が遅れる傾向にある」と指摘しました。栽培管理では、育苗、定植、定植後の管理について説明しました。ネギの主要病害虫の防除対策として、軟腐病、さび病、べと病などの発生条件・被害の状況、対策のポイントを確認しました。

また夏ネギ、秋冬ネギの産地の特徴や概要を紹介し、秋冬ネギ50㌃と夏ネギ30㌃を栽培するための収支を検討しました。

農業現金収入や農業所得、農業経営純利益を具体的な金額で示しました。月別の労働分配や作業別・単位規模当たり投下労働時間も具体的に示しました。



はだしで田植え体験する岡本西小の児童



国本西小で田植え体験（5月11日）  
同校近くの学校農園で  
全児童67人と保護者が参加し、  
田植え体験を行いました。



田植え体験をする国本西小の児童



宇都宮市白沢町のなかよし保育園の園児68人がサツマイモ苗の定植体験（5月25日）  
JAうつのみや青壮年部河内支部の盟友が圃場を整備し苗を用意しました。  
園児たちは3本の苗を分けてもらい、横1列に並んで、1本1本を丁寧に植え付けました。

サツマイモの苗を定植する園児たち



組合員の皆さまからの地域の話題や活動報告をお待ちしております。写真を添えてお送りください。  
※紙面の都合上、掲載されない場合もありますのでご了承願います。詳しくは総務課組合員広報係まで。

# 管内インフォメーション

## 農業倉庫のコメを一括管理 「パナミエール」導入

**JJA**は、農業倉庫の温湿度管理の自動化・遠隔監視、管理日誌作成補助機能を備えた農業倉庫向け支援サービス「楽々日誌パナミエール」を28倉庫中、6倉庫に導入しました。パソコンやスマートフォンで温湿度・穀温を把握、確認し、一括管理できるため、効率化にもつながります。県内の10JAの中では、初めての導入になりました。

「楽々日誌パナミエール」は、毎日の農業倉庫での保管管理日誌作成を省力化し、衛生管理を強化するために全農が販売を開始。農業倉庫内に無線の温湿度計センサー機器や温度を計測する穀温計を設置することで、クラウド経由でのリアルタイム監視が可能になります。

自主的な衛生管理を支援するため、衛生管理のノウハウを持つ専門オペレーターが訪問して倉庫の衛生状態を診断チェックし、プロの視点からの改善提案を受けることで、衛生管理状態の向上も見込めます。JAは、東部営農経済センター管内の3倉庫と南部営農経済センター管内の3倉庫の計6倉庫で導入しました。

JJA米麦課は「生産者から預かっている大切な米が適切な状態で保管されているかを『見える化』することにより一括的に管理し、自主的な衛生管理・保管を徹底して行っていく」と話しています。



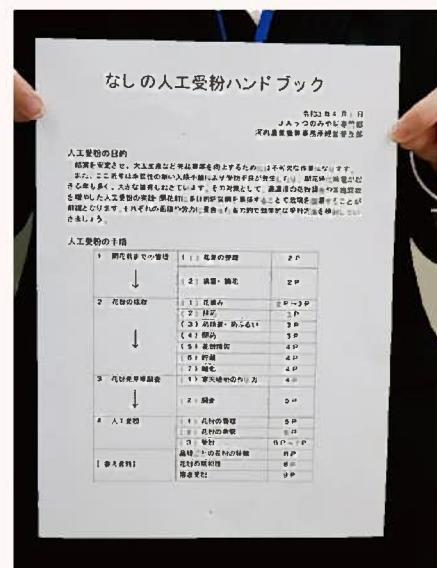
JJAが導入した楽々日誌パナミエール

## 効果的な授粉方法をハンドブックに 梨専門部が人工授粉伝授

**梨**専門部と県河内農業振興事務所経営普及部は、省力的で効果的な授粉方法をまとめた「なしの人工授粉ハンドブック」を作成しました。専門部員100人と関係者に配布しました。人工授粉は「結実を安定させ、大玉生産など秀品果率を向上するためには不可欠な作業」としています。

人工授粉の手順として①開花前までの管理②花粉の採取③花粉発芽率調査④人工授粉を取り上げ、最後に参考資料で品種ごとの花粉の特徴などを紹介しています。

開花までの管理では、「摘蕾や摘花は作業適期が短く、作業が集中しやすいので、大規模経営では作業が間に合わなくなることが予想されます。4月上旬ごろまでに不必要的花芽を指で除芽し、花芽数を事前に制限する方法もある」と指摘しています。花粉の採取は、「授粉樹の花の蕾が風船状になったころ開始。花は一齊に開花しないので2~3回に分けて採取するとよい」としています。



梨専門部と県河内農業振興事務所経営普及部が作成した「なし人工授粉ハンドブック」

# 水稻

## 水管理

根の活力を維持するために、引き続き間断かん水を続けましょう。ただし、茎数が多く葉色が濃いほ場や水はけの悪いほ場では、やや強めの中干しを実施し、幼穂ができたら間断かん水に切り替えます。出穂前14日～7日が最も低温に弱いので、最低気温が17°C以下の場合は、深水管理をして幼穂を保護します。また、高温の強い風が予想されるときは、浅水程度で構いませんので、田面が見えないよう管理しましょう。

表1 穗肥管理例 (コシヒカリ対象)

茎数	葉色	穗肥時期	幼穂長(cm)	施用量(kg/10a)
少 17本以下	淡 3.5以下	早め 出穂18日前	1	BBNK -202
普通 18～20本	並 4.0前後	通常 出穂15日前	2	
多 21本以上	濃 4.5以上	遅め 出穂10日前	7	15

※葉色の数字は、カラースケール(葉色版)

図1 水稻の幼穂長

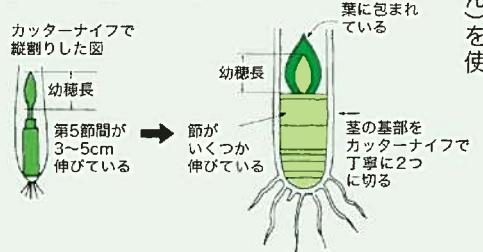


表2 コシヒカリ幼穂長と出穂前日数

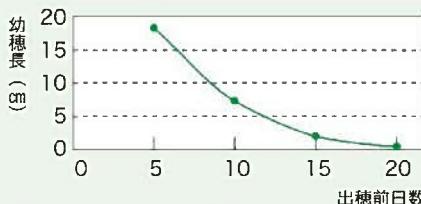


表3 カメムシ類防除剤

薬剤名	散布量/10a	使用時期	使用回数
スタークル豆ぶ	250g	収穫7日前まで	3回以内
スタークル粒剤	3kg	収穫7日前まで	3回以内
スミチオン乳剤	1000倍液を60～150L	収穫21日前まで	2回以内
トレボンEW	1000倍液を60～150L	収穫14日前まで	3回以内
MR.ジョーカーEW	2000倍液を60～150L	収穫14日前まで	2回以内

表4 水稻現地検討会開催日程

	9:00～10:00	11:00～12:00	13:30～14:30	15:00～16:00
7/9(金)	西部宮農経済センター	北部宮農経済センター	上河内宮農経済センター	河内宮農経済センター
7/12(月)	東部宮農経済センター	南部宮農経済センター	上二川宮農経済センター	南河内宮農経済センター

## 穗肥

## カメムシ類防除

カメムシは畦畔の出穂したイネ科

## 現地検討会

本年度の水稻栽培に関する肥培管

44cm以上ある場合は倒伏が予想されます。また、一番長い葉(12葉)の葉身長が20日前(幼穂長3mm)をねらい、BBNK-202の場合10a当たり15～20kgを用いて施肥します。

分肥体系では、穗首分化期頃(出穂30日前頃)に茎数と葉色の値を調査し、表1を参考に穗肥の実施時期を判断しましよう。出穂期の予測は、一番長い茎を抜き取り、カッターナイフで縦割りして調べます(図1・表2)。施用量は、BBNK-202の場合10a当たり15kgです。

用したほ場は、原則として穗肥は行わないようになります。

雑草に引き寄せられ、稻の出穂に伴つて稻穂に移動し加害します。稻の出穂2～3週間前と出穂期頃の2回連続で、地域ぐるみで草刈を行いましょう。また、水田内のノビエやホタルイ等の雑草も取り除いておき、イネ科雑草の穂を作らせず、カメムシを寄せ付けないようになります。なお、地域内で極端に早いか遅い出穂は被害を受けやすいので、特別な注意が必要です。

内で極端に早いか遅い出穂は被害を受けやすいので、特別な注意が必要です。

カメムシ類の防除は表3を参考に行ってください。また、飼料用米は、収量によって助成額が変わりますので、主食用米と同様の肥培管理や病害虫防除を実施します。

カメムシの防除は表3を参考に行ってください。

## 大豆

## 中耕・培土

中耕は土壤への酸素供給と雑草抑制、培土は不定根の発生促進・倒伏防止・雑草抑制・排水性の改善など品質・収量の向上を目的に行います。



図2 大豆の中耕・培土

1回目の中耕は播種後20日前を目安に、子葉節が埋まるように行います。2回目の培土は、1回目の中耕の7～10日後に、初生葉節が埋まるように行います(図2)。なお、中耕時には畦間の大豆の根を傷めることから、遅くとも開花1週間前までに培土を終えるよう努めま

理、病害虫防除対策、リモートセンシングについて、各宮農経済センター管内ほ場にて現地検討会を開催します。日程は表4の通りです。詳しい内容及び開催場所については最寄りの宮農経済センターにお問い合わせください。

## 地域へ農産物提供



6月12日昭和こども食堂へ提供



11月26日フードバンクうつのみやへ提供



11月27日昭和こども食堂へ提供

このような支援の需要は今後もますます増えることが予想されるため、今年度も継続して支援活動を展開する予定です。

## 『青壯年の記』 ～Youth & Middle～

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、農産物の需要低迷が続いた。青壯年部盟友にとっても厳しい年になりました。例年のような活動はままならなかつた。主な活動を振り返り、今後の活動方針を紹介します。



## 学習会(8月4日)

### 「農業と福祉の連携(農福連携)について」

—栃木県女性農業士 坂本典子 さん

### 「新型コロナウイルスの農業への影響と今後について」

—JA栃木中央会 農業対策部 部長 井澤杉生 さん

盟友22人が学習会に参加しました。農福連携の形態や事例、農産物需給見通しや補正予算等の紹介がされました。この学習会を通じ、実際に農福連携を農業経営に取り入れた盟友もいます。非常に有意義な活動であり、また密を避けて実施することができるため、今年度もテーマを設定して開催する予定です。



8月4日に行われた学習会

## 黒崎浩史青壯年部長より



今年度青壯年部長を務めます河内支部の黒崎浩史です。私が本部役員となり今年で5年となります。この間、他のJA青年部との学習会、農林業祭の参加や常勤理事の皆さまとの意見交換会等、内容の濃い活動を行ってまいりました。昨年度はコロナ禍で計画の変更を余儀なくされる中、それでも感染対策に配慮しての学習会や支援事業が実施できたことは、ひとえに関係各位と盟友の皆さまのご協力のお陰と深く感謝しております。

今年度は対外活動が制約される分、青壯年部の今後の在り方を見つめる好機と捉えております。ここ数年で活動が盛んになる支部がある一方で、盟友の減少に悩む支部も出てきています。今後の中長期的な活動方針を考えることと併せて、コロナ禍で困窮する「食」を支援するためフードバンクや子ども食堂等へ、盟友の協力のもとにさまざまな農畜産物を提供していきたいと考えています。

青壯年部は、部会や専門部といった作物の枠を取り払い、盟友相互が自分の営農の悩みや問題を相談しJAうつのみやの若き担い手を育む貴重な場です。新たな盟友の確保と、未来を考える1年にしたいと思います。

# ワンプレートレシピ One plate recipe

「タコのエスニック炒め」



## 材料(2人分)

蒸しタコ(ぶつ切り).....	120g
キュウリ.....	1本
ダイコン.....	1/8本
トマト.....	中1個
セロリ.....	1本
ニンニク(みじん切り).....	小さじ1
タカノツメ.....	3本
オリーブ油.....	大さじ1
白ワイン.....	大さじ1
塩・こしょう.....	適宜
砂糖.....	小さじ1
ナンプラー.....	大さじ1
レモン汁.....	大さじ1

## 作り方

- ① フライパンにオリーブ油、ニンニク、タカノツメ、タコを入れ弱火で香りを移しながら3~4分ほど炒める。
- ② ①に白ワインと食べやすい大きさに乱切りした野菜類を入れる。塩・こしょうを振り、砂糖、ナンプラーを入れ2分ほど強火で炒める。火を止めてレモン汁を入れる。
- ③ ②を器に盛り付けて出来上がり。

茨城県笠間市にある  
天晴(旧キッチン晴人)  
オーナーシェフ  
ながいともかず  
永井智一



## 今月の直売所情報

### 南河内グリーンセンター特売のお知らせ

7月22日(木)・7月23日(金)



お米の特売の他お買い得品を揃えて、  
ご来店お待ちしております。

### 南河内グリーンセンター 生産者さん募集中!

詳しくは南河内営農経済センター  
TEL: 0285-48-2215  
営農課 森田・上野まで

### お米の特売日

JAうつのみや お薦めのみやおとめ  
(コシヒカリ)をお買い得価格にて販売します!!

JAグリーンインターパーク  
直売所 毎月第3日曜日(7/18)

& JAグリーンかみかわち  
直売所 每月8のつく日(7/8, 18, 28)

# 西部営農経済センター

だより

各支所の活動や地域の情報を届けします!



## 西部営農経済センター店舗紹介

宇都宮市中心地区から西に離れた場所に所在する西部営農経済センターでは、直売所は設けておりませんが、肥料、農薬、ハウス・園芸資材、生活用品、食料品を販売しております。この時期は、水稻用殺虫剤・殺菌剤、雑草防除対策で園芸用除草剤が売れ筋のため品物を取り揃えて販売しております。また、食料品においては、漬物の素が人気のため、種類を揃えております。近くまで訪問された場合は、皆さまのご利用をお待ちしておりますので、よろしくお願いします。



西部営農経済センター外観



店舗で働く職員



城山ライスセンター外観

## 城山地区ライスセンター

城山地区ライスセンターは平成2年度に建設された米麦共同乾燥調製施設になります。主に北部地区と西部地区生産者に利用していただいており、6月に小麦のさとのそら、9月から10月にかけて、主食用コシヒカリ、あさひの夢、飼料用米の荷受けを行い、その時期は生産者の収穫作業に併せてJA職員が日々荷受けや調製作業に打ち込んでいます。

※小麦のさとのそらは、不二家カントリーマアムの原材料として使用されています。



### 支所・センター電話番号

中央支所	028-633-3467	南河内支所	0285-48-2211
宝木出張所	028-622-6111	上三川支所	0285-55-1510
平石支所	028-661-4311	宇都宮北部営農経済センター	028-665-0550
南部支所	028-656-1020	宇都宮西部営農経済センター	028-658-6565
城山支所	028-652-0711	宇都宮南部営農経済センター	028-656-8484
北部支所	028-665-0003	宇都宮東部営農経済センター	028-660-3535
豊郷支所	028-624-8011	上河内営農経済センター	028-674-2164
清原支所	028-667-0151	河内営農経済センター	028-673-6911
姿川支所	028-658-6881	南河内営農経済センター	0285-48-2215
上河内支所	028-674-3333	上三川営農経済センター	0285-55-1511
河内支所	028-673-3135		

各種お問い合わせはこちらへ

■ キャッシュカードの紛失・盗難  
フリーダイヤル0120-082065

■ 夜間・土・日・祝祭日の自動車事故(24時間受付)  
事故受付センター フリーダイヤル0120-258931

■ JA葬祭(24時間受付)

アトラス宇都宮ホール 028-660-5555  
アトラスファミリーホール鶴田 028-633-9200  
アトラス上三川ホール 0285-55-1555

■ LPガス関係 灯油・軽油・A重油の配達  
フリーコール 0800-700-0085(通話無料)  
※緊急連絡先028-633-0085